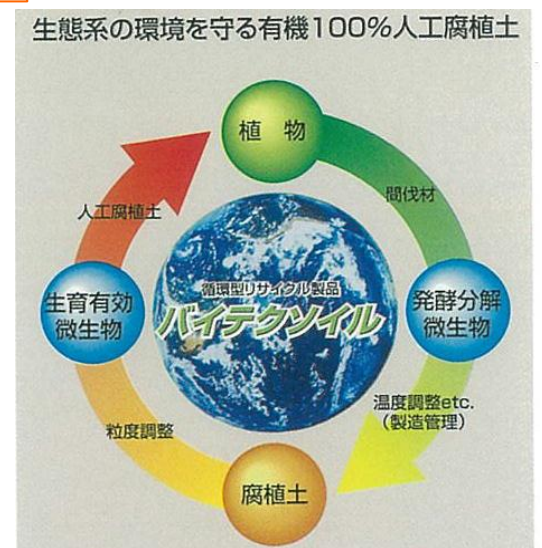


バイテクソイル工法

強酸性土壌でも緑化可能な 植生基盤材を用いた工法です

有用微生物の効果を用いた工法

- バイテクソイル(植生基盤材)は主原料に牛糞と落葉広葉樹を多く混合しています。
- 原材料をリサイクルし、発酵分解微生物を加えることで腐植土が生成されます。
- 製造の最終工程で生育有効微生物を混入し、有機物100%の人工腐植土を完成させます。
- バイテクソイルは植物との共生で自己施肥が繰り返され、化学肥料を必要としません。



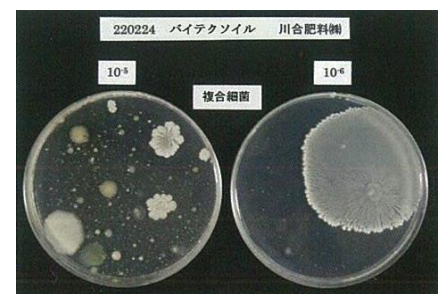
リサイクルイメージ図

強酸性土壌での緑化が可能 (pH1.2の土壌での実績があります)

- バイテクソイルは多くの腐植物を含有(63%)しています。
- 腐植物はフルボ酸とフミン酸に分けられますが、バイテクソイルはフルボ酸を多く含有しています。フルボ酸には抗酸化作用があるため酸化しません。
- 生育に有害となる土壌内の活性アルミニウムと上記の腐植物が結合して、酸性土壌での酸化障害を軽減します。
- バイテクソイルはpH3以下の強酸性土壌においても、微生物の酸化還元機能によりpHの調整は不要です。



バイテクソイル
(牛糞発酵分解 約7ヶ月後経過)



培養した微生物

循環型リサイクル製品



エコマーク商品認定(05131021、緑化基盤材)

微生物入り植生基盤材 **バイテクソイル**
グリーン購入法 特定調達品目適合

バイテクソイル工法

- バイテクソイル工法の主な工法として、**バイオプラスターチ吹付工法**（NETIS登録：HK-060010-V）と**バイオ・植生注入マット工法**（NETIS登録：HK-100014-A）があります。



バイオプラスターチ吹付工法による緑化



バイオ・植生注入マット工法によるモルタル法面の緑化

強酸性土壌での施工事例

①千葉県pH3.6～の強酸性切土のり面



吹付完了時



施工後6ヶ月



施工後12ヶ月

②北海道pH1.2～の強酸性切土のり面



吹付完了時



施工後2年



施工後6年